
過去の罪

銀魂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

過去の罪

【コード】

N2120M

【作者名】

銀魂

【あらすじ】

ある一人の女が歌舞伎町を歩いていた…

紹介

オリキャラの名前です

吉田松香

20歳

ほかのキャラの年

銀時・桂・高杉 20歳後半

神楽 15歳

新八 15歳

沖田 18歳

土方 20歳後半

近藤 三十路それじゃッ

行きますか？

あっ言っつてなかったことがありました？

多分これは高杉向けですので

高杉が嫌いな方はお引き取りください？

高杉大好きなかたかはどうぞみてください？
ちなみに真選組は出ません？

もしかしたら土方と沖田だけはでるかもしれませんか？

期待していた人はすいません？

次こそ始まります？

紹介（後書き）

次は見てくれるかな？

いいとも〜（ほんとにこ？

波乱の幕開け（前書き）

松花ちゃんが…松花ちゃんがアアアアアア？

波乱の幕開け

『ここか…』

今、万事屋の前に銀時達が思いもしなかった展開になり得るだろう…

そんな大事な存在な女が立っていた

松「ここが万事屋ですね…」

ピンポーン

松花は万事屋のインターホンを押した

すると…

新「はい…」

新八…万事屋のつつこみ役だ

新「あつ依頼ですか？
まあとにかく入ってください」

松「失礼します。」

松花が案内されたのは居間だった

そこには…

社長席みたいなところに銀髪の天然パーマの人がいて
ソファに座ってる娘が一人

その隣にでかい犬がいる

新「さあこの椅子にかけていてください

銀さん！ジャンプ読まないで！

依頼人来てるんですから！！」

新八が言うと、さっきまでジャンプを呼んでた人がこっちを向いた

銀「あーと…なんの依頼ツスか？」

神「銀ちゃん！まずは名前を教えあつのが常識ネ」

銀「ああそうだな…」

俺ア坂田銀時だ。銀さんでも銀ちゃんでも好きに呼んでくれや」

そういつて銀時は椅子に座り直した

神「あたしの名前は神楽いうヨ

よろしくするヨロシ！」

定「ワン！（よろしく）」

神楽が言うのと定春も松花に紹介した

松「はい、よろしくお願いします。」

カタ

新八は松花にお茶を出しながら

新「それで…今回の依頼の内容はどのような「用件で？」

カチャ

松「お茶、ありがとうございます。
内容は…父の生死を知りたくて…」

聞いていた銀時は新しいジャンプを真ん中から思い切り切り裂いて
しまった

銀「おいおい…お嬢ちゃん

君自分がなにいつてんのか分かる？」

松「分かっていますよ？銀時さん…」

いいえ：「白夜叉」

松花の唇は妖しく

波乱の幕開け（後書き）

松花ちゃんをSっぽくするのは難しいです（・・・・・）

訳あり(前書き)

松花ちゃんは愛に飢えているんですよ…

許してあげてください…

訳あり

銀「何で俺の…ッ?!」

銀時は知りもしない女に自分が攘夷戦争時代に呼ばれていた名前を知っていることに驚いた。

松「それは…」

あなた達が父の傍にいても害がなかったのか…
探していたら分かりました。」

その言葉に銀時は驚いた。

銀「ってことはお前エは先生の娘…ってことなのか？」

松花は静かに頷いた。

松「私は父があなた達に教えていた頃は一人暮らしをしていました。」

「

そうして……松花は自分の過去について話し出した。

訳あり（後書き）

可哀想ですね…

でもそれが現実だったのですからしかたないことです…

感想・レビュー

待ってます。

松華の過去 前編 (前書き)

松華の過去です！

変なところもありますがよろしくお願いします？

前編・後編です？

松華の過去 前編

それは私が九つの時。

松「松華、私は今日家を出る。…もしかしたら帰ってこれないかも
しれません。」

それは急な話でした。

その時の私には分かりませんでした。

華「どこ行くの？帰ってこれないかもしれないって…」

松「私はこれから寺子屋を作りに行きます。

子供たちに色々教えに行くのです。」

華「じゃあ私もッ！」

その時の父の顔は今でも忘れません。

松「分かってください!!！」

華「ツツ！」

今までに見たことのない顔で驚きました。

叱るときにも見せなかった顔を…

松「私が教えるのは戦う術…つまり危険なことを教えるんです！」
華「でもツ！…それでも父さんの近くにいたい…ツ」

そうするといきなり父が抱きついてきました。

松華の過去 前編 (後書き)

中途半端ですいません？

次回もよろしく願いします？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2120m/>

過去の罪

2011年10月7日12時38分発行